



3040
3
13



へ 13
3040
3

昭和九年
九月三日

夕雲斎著 文章卷之三

遠州小夜中山藤 栗林亭鬼印著

花の井新町より身と賣活

叔母源八の沈むるを我輩一室を忠誠の臥しあう浪死す

八十増吉平と尋ねし一室を宿よりうて源八をうて大に恨む

目か付見の船より面会し世に源八のよも触るを来らばし

ときあぐ 餐後しるは源八河を改め今日ある事ハ安云よ

お入て所頼より子細あつてもうぐくひうくくくくくくくく

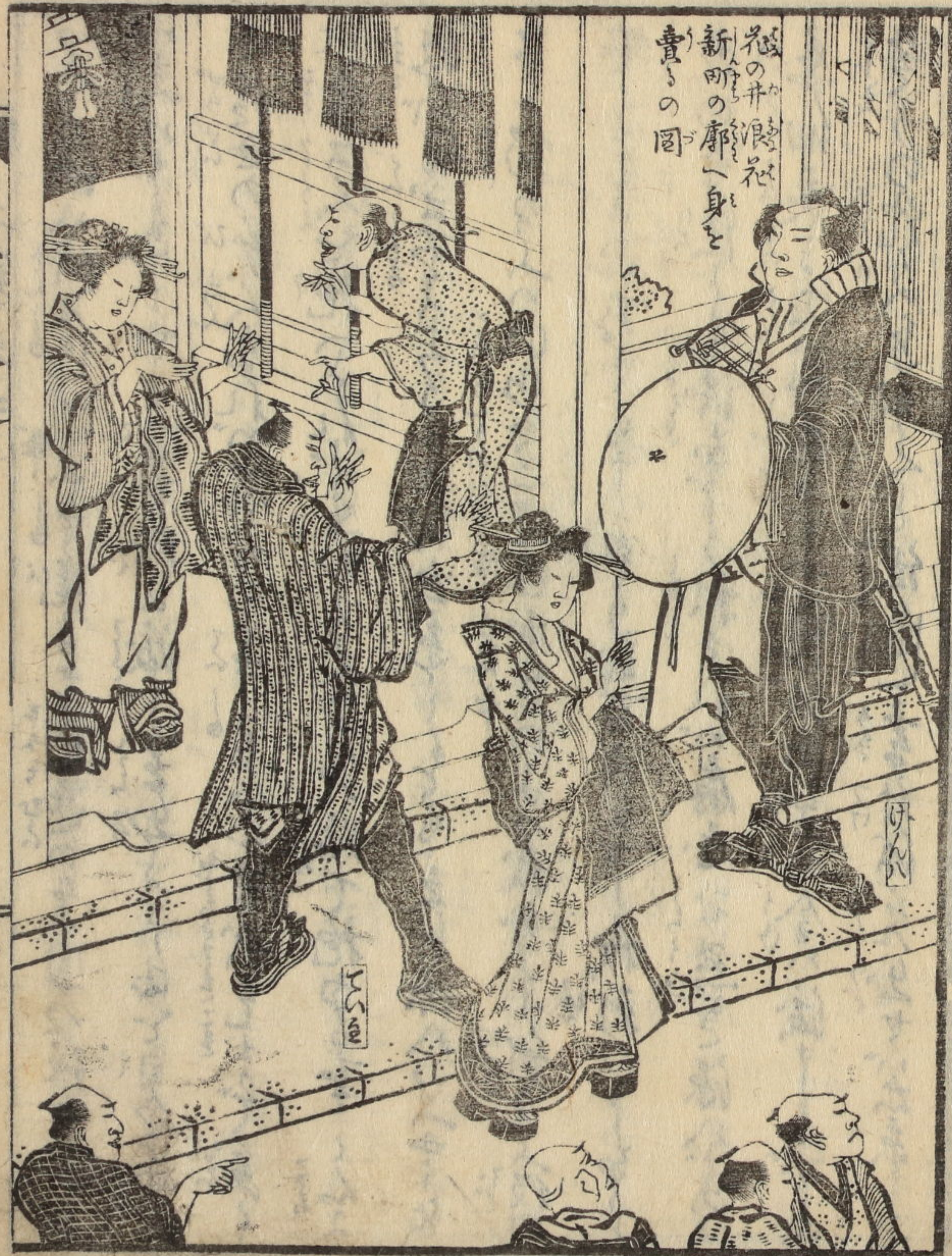
没落主人の娘をと帝て主君成東王(中)うん(の)事(も)居

もく(う)う(う)れ(バ)鬼(の)め(さ)八十倍始終涙(い)せ(び)も(掛)紙

め 藤林亭 鬼印

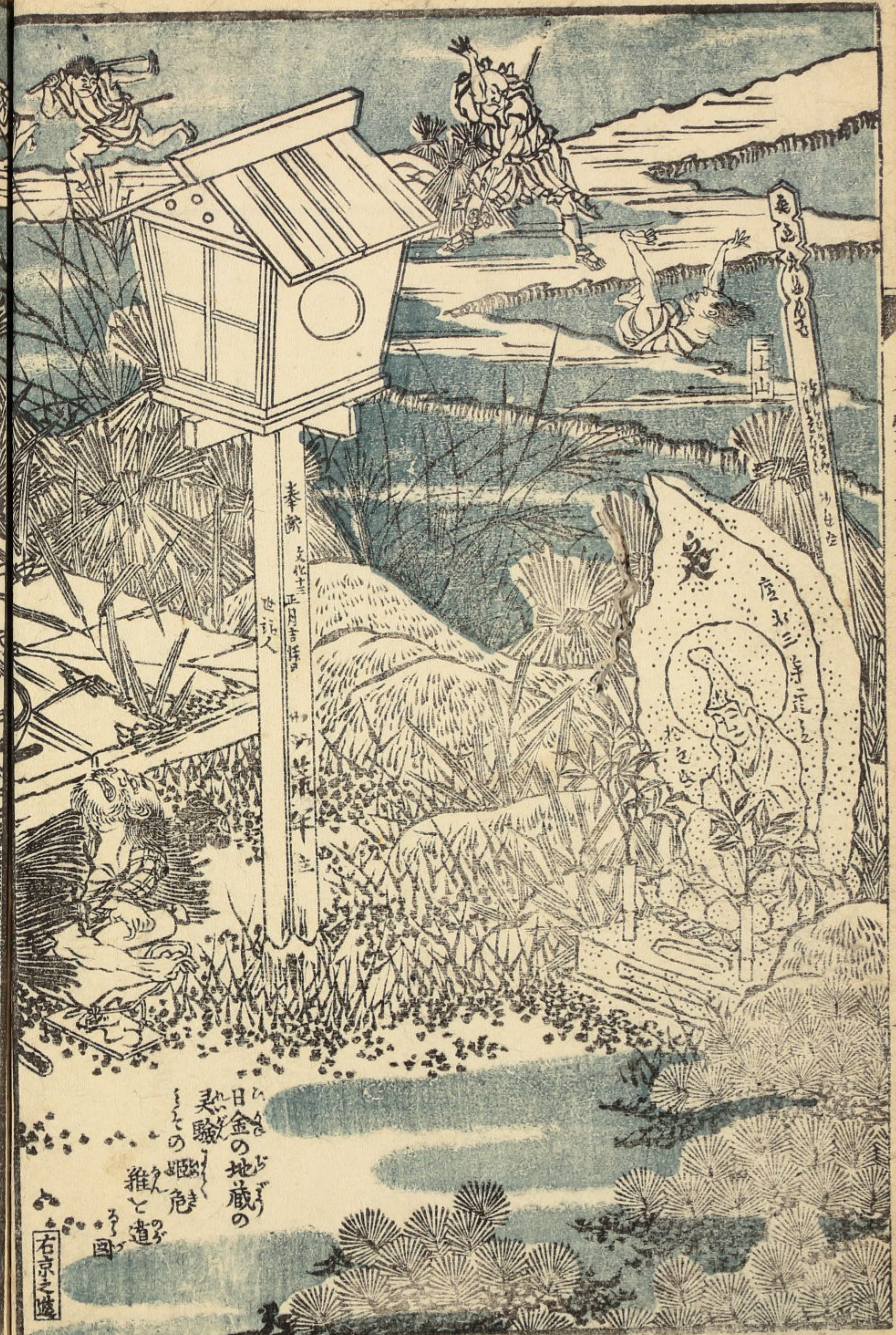
りて目と押ぬぐくして、うらうらが扱くか、おきふも、うら
うの我兄と使客と幸く、親むと引ざる、素性なり、妹は源八
どの忠誠感むる、余らう、口惜や、黄金ぶる、をあらう、で
其息女と傾城、沈ん、う、易く、し、新町、扇屋の、上、那、某
と、顯、肩、う、て、角、力、の、方、く、一、多、く、の、花、も、終、れ、其、も、折、前
来、う、て、ぶ、て、ん、湯、此、人、も、我、家、の、人、を、折、み、と、抱、き、う、ら
う、で、つ、も、あ、る、食、致、し、る、ん、給、え、う、待、り、悪、く、い、け、う、ま、じ
く、云、掛、て、出、行、る、る、が、中、う、う、て、を、傳、う、是、ト、の、吐、の、始、終、と
つ、ど、う、し、修、り、し、其、者、ん、と、感、じ、候、令、慈、母、い、い、中、う、で
も、名、の、志、し、ふ、免、じ、望、の、金、子、と、き、と、じ、給、終、の、是、ト、と

因、得、て、系、部、よ、り、其、節、今、子、と、後、下、う、ん、進、付、乞、う、来、る
る、う、う、と、い、う、源、八、候、バ、傳、う、聞、え、の、由、新、あ、う、と、れ、終、と
る、う、ら、う、流、の、穿、奪、と、つ、て、さ、う、さ、う、年、の、先、刻、は、お、を
候、う、其、人、と、同、じ、て、系、部、へ、行、ん、と、其、用、を、と、う、さ、う、ら
源、八、と、見、て、お、世、の、方、い、け、人、を、折、う、扱、く、終、男、が、う、ら
今、浪、花、よ、け、後、の、恰、朴、の、聞、え、い、は、し、と、賞、し、源、八、傳、う、系
部、と、う、て、急、ぎ、う、ら、う、て、ふ、や、あ、う、う、さ、う、源、八、人、入、
て、き、う、さ、う、い、う、う、は、室、よ、は、若、う、う、家、居、が、う、奥、の、方、に
振、み、の、儿、強、う、け、み、十、余、の、士、例、は、ら、う、と、は、花、の、井、は、み、と、抱、き
老、婆、い、系、部、あ、う、て、う、う、ら、う、花、の、井、あ、う、け、源、八、を、尾、い、う、ぞ、と



かくし花の井よりとんとんとて一休を即ち老女は後
 降るくは機をんより休をのほへ机をくはふくは机を
 父よりくは機をくはふくは机をくはふくは机を
 打ふくは機をくはふくは机をくはふくは机を
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 どのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 と父よりくは機をくはふくは机をくはふくは机を
 ん細く思ふん源八は源八と机をくはふくは机を
 い合ふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ん汝はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

昨某共兩人より一必伏せまゝくくくくくくくくくくくく
 かと付くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 降るくは機をくはふくは机をくはふくは机を
 とはらんくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 厚く机をくはふくは机をくはふくは机を
 以蘭姫危難目金の地花を思ふ源八の作
 かくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 休を即ち養育令より格より格より格より格より格より格より
 かく熱海へ来んと昨某共市女をくくくくくくくくくくくく
 かくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



どもさういひ隣をあらう三上山百ちる鎌倉の角力の角り第
ふ角力に人石つと泊り「が氣をさう右をさくをく出」と言大
よほび警塚表み郎屋のん成終らほ」此園原る」我を
紙と盗しもけねとふ入ん謀る」が幸のふりて成るうり
引極んで起つとけり「けり」の儀表ふけりんと物懸とさき
どもよ叫合は「合戦の七ツ次」宿と立出上方の方へ行で
三時明神と横見見て二日町てふ地へさきよ四人の弟
子ども儲とも身と忍び今やほ」と待居るうりやる事とふ
あづばね君右系くをいふさより熱海いみ里おれいん
易しと教め方よ宿と立出何んあくるうりやると待居

うり人さうくと立出警塚表み郎屋の作と文是まで附来
り者どもさういひ此園原と渡さく」とさうくとさう
唯のぬよと引さきハ右系くを物懸い警塚表み郎屋何
の用だん今く已きへ人突るんどいふ盗賊おんは家付入
ふ並と見よと刀引抜切てやとさきいませと四人も
抜つと火花をさくして戦ふもさきのお系くを二人よさ
と負せられ残り二人大は勢をば途路へ成りてふさき
と己等何れもねかりる戦老人のふ並と見よと退うけ
けはねいふと揚やよ右系くを長退さくつて成るうり
後より思ひもさきと六尺余の大男引出物とふさきとねと脇

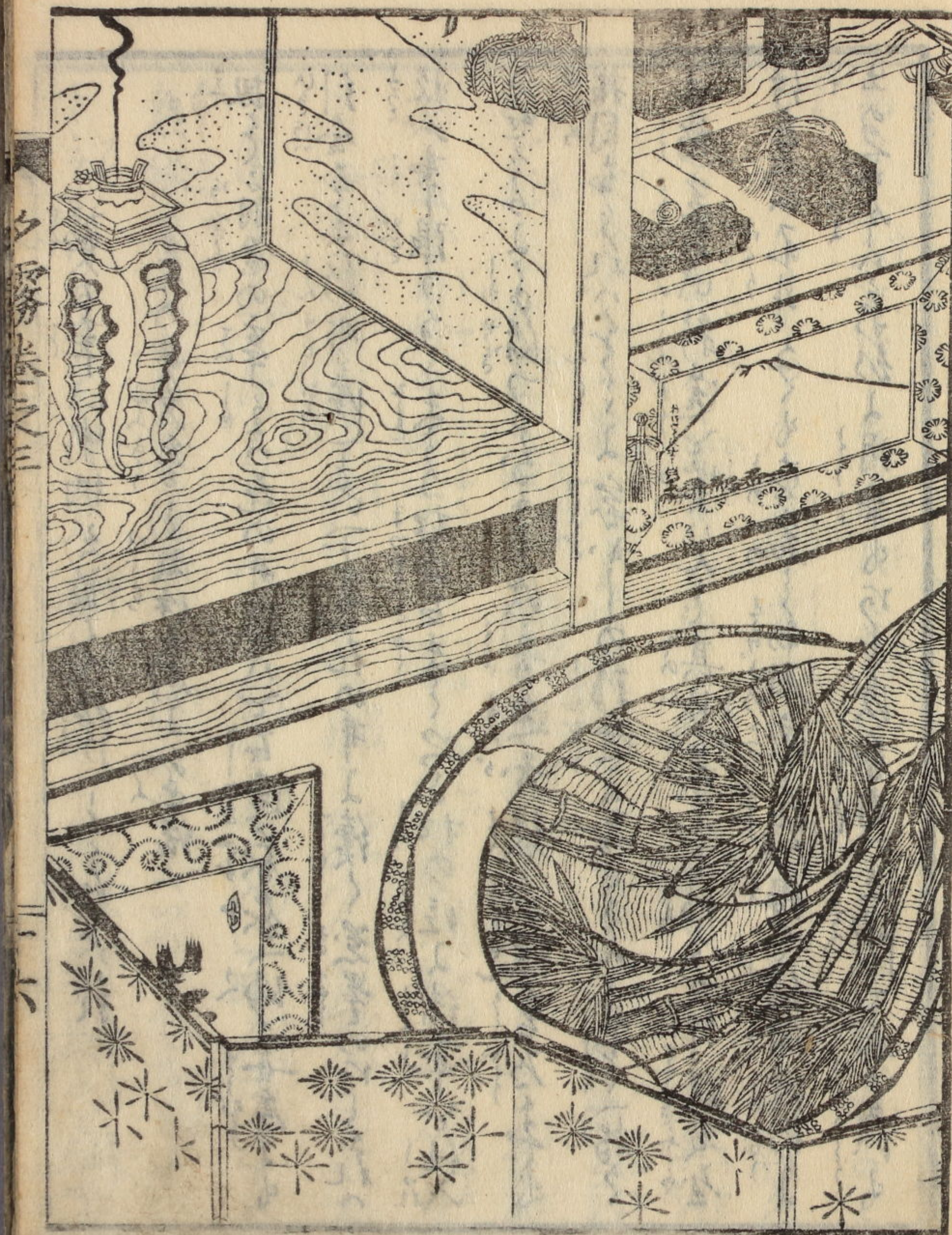
東 納 連 深 神 雨 日
京 水 内 川 回 国 橋 木



三

寒くうらうと見えぬやうな右系に進む付て能く見えぬ
 中へ紙と皮で包み候なり一つは半の強きうこのいふと
 昨君なり候見えに「うふふふ」是れ「修り者の本意の
 地を美後すすかまはに衣の泥よりうらうらゐるゐる
 上ふと田の中へそ組合のいふ時の泥をれば昨君の毒
 の毒はむせび有難や家危難を救ひぬいふては恩深
 報にあらうべきとようと泣くは右系をも体抱くせむ
 未せふ及びても日月の地は落つるばかり思ひたか
 事の有がとさうと泣きさうをも抱くは右系も
 地を後のうへありて昨の姿とちやうとくは右系をも

名取に能くお方より熱海入湯の者より是より及ばう程なる
 果人著て寒い日全の地をとりて是とむらうのうへける巻山熱
 海（一里）よりいふと教へるゝ大は暖む右系をも抱く
 より乳をいけ候とくくくは人強健よりうらうらゐるゐる
 の利はさうとくくくは人強健よりうらうらゐるゐる
 中納言殿親子對面の園地の者よりうらうらゐるゐる
 父の病中服の結
 まより友人の信巻ふとくくくは人強健よりうらうらゐるゐる
 の位より友人の信巻ふとくくくは人強健よりうらうらゐるゐる
 り腰より友人の信巻ふとくくくは人強健よりうらうらゐるゐる



夕霧伊左衛門
返りて多し恨み
即

堀入る幸は中納言殿より給ひしうけあはれ

花の井夕雲と改作なふよき経

扱ふに羽屋の亭主は花の井源八と石連家女房も

引合ふに新町蔵といふも花の井は續く慈母のうけあは

収め事限りうきまより松山をまゝつる松の位は諸事仕入

さやうのよき縁つゝかういふ次音連歌琴三經書もまやも

振目あふれいふといふ氣かゝりの新造よおさんとわい一編

は諸客はい新造と笑ひし其日迄しと侍る却疑者な

侍ならへ玉斗うきも虫名も物殿療病と得て諸國修けし

おまゝの今いふおれは用事なり次家内一立ゆりお母あはれも

花の井うきと隠しあはれ無き侍ならへは花の井は事の

いふおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

うきおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

うきおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

うきおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

うきおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

うきおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

うきおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

うきおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

うきおれいふつゝと隠し骨瘦のうきおれいふき人の侍

